



初生衣神社おんぞ祭り



横山八幡神社の祭礼



瀬尻のぶか凧



蒲神明宮

浜松地域遺産に
無形民俗文化財六件認定

遠江・山と里の民俗

会報 第014号

令和元年度認定 浜松地域遺産（無形民俗文化財）一覧

東区 神立町	蒲神明宮の御田打ち	蒲神明宮で毎年1月1日の朝に行われる神事。拝殿の中央に田に見立てた箱を置き、田打ちから田植えまでの稲作の所作を行い豊作を祈る。この神事は伊勢神宮の儀礼に倣って行われるようになったと言われる。
	蒲神明宮の神楽	蒲神明宮の庭上の座礼で、約16名の子女が舞を奉納するもの。二列に並び、両手に榊と扇子を持って、曲に合わせて踊る。伴奏は太鼓と笏を打ち鳴らす。
	蒲神明宮の庭上座礼	玉石の上に薦を敷き、その上で行う神事。
北区 三ヶ日町	初生衣神社おんぞ祭り	850年以上前より、奥三河（現、愛知県新城市）の赤引きの絹糸を使い、初生衣神社の織殿の織機（浜松市民族文化財指定）で絹織物に仕立て、愛知県豊橋市湊神明社を経て、伊勢の神宮に御衣（おんぞ）を奉納する神事。
天竜区 横山町	横山八幡神社の祭礼	横山八幡神社の祭典。起源は元禄以前と言われ、五穀豊穡と無病息災を祈る神事として神輿の渡御が行われる。渡御は天狗に扮した男が先導する。毎年8月14、15日の2日間に屋台の曳き回しを行う。
天竜区 龍山町瀬尻	瀬尻のぶか凧	江戸時代後期から瀬尻地区に伝わる初節句を祝う伝統行事。標高450メートルの山の中腹で天竜川から吹き上がる風を利用して凧を揚げる。大きいものは20畳ほどで、尾がなく凧の頭部には弓のような「うなり」を付け、鶴・亀の縁起物の角絵（すまえ）を描く。

三方原合戦の戦死者を祀る

柴田宏祐

三方原合戦

激しい戦いでした。馬はいななき枯草はちぎれ、土の塊ははねとびます。その上、雪はひどくなり、目も口も開けられないほど降りしきります。

時間経つ

につれ、騎馬軍団を中心とした優勢な武田軍が徳川軍を圧倒し始めました。近づけば近づくほどけものように荒れ狂う甲州勢に三河武士もたじたじになってきました。右の陣が破れ、左が崩れ、ついに、酒井隊、石川隊までも次々と敗走するに至りました。



三方原合戦は徳川軍の完全な敗北でした。開戦から半刻もたたないうちに大勢は決着してしまつたのです。1572(元龜3)年12月22日の夕刻、雪の降り積もつた三方原の北端の地は、

両軍の武士の血で真っ赤に染まつたということなのです。

精鎮塚とおんころ様

こんな激しい戦いがあつたのに、そんな痕跡を三方原で見つけることはできません。ところが、いつのころからか分りませんが、三方原追分から姫街道を北上した権七付近に三方原の戦いの戦死者を祀る精鎮塚とおんころ様が向かい合つて建てられていたのです。近くに住む人や街道を旅する人々が手を合わせ、野に咲く花を手折つては敵味方の差別なく懇ろに吊つていたと言われています。

時移り、道路拡幅等の為に

取り払われた精鎮塚は三方原小学校近くの本乗寺に、おんころ様は中川の中川寺に移されました。

精鎮塚の供養

三方原合戦のあつた十二月になると本乗寺では精鎮塚の回りを掃き清めて供養が行われます。



精鎮塚に詣でる人々

今年は十二月十五日に実施されました。三方原合戦戦没諸霊位と書かれた位牌も塚の前に並べ、「徳川・武田・織田軍戦死者供養」と読経が唱えられ、参列者の焼香が続きます。



合戦の戦死者の位牌

おりしも、境内の黄葉した銀杏の葉が降りしきりる中、子ども達も参列して、なごやかな雰囲気の中で進められました。

百年の伝統行事

庫裏に戻ると湯気の立ち込める中にそばが茹で上がり、皆に振る舞われました。

「先々代の住職の頃から始まつたのですから、百年近くになりますね」と住職さんにはこやかに語っていました。



出石そばをいただいで

「このおそばは兵庫県の出石の本格的なものですよ」と付け加えられました。そんな遠くのおそばが提供されたのは恩讐を越えて供養していることを知った同派の寺院から贈られたという法縁に支えられていることも知ると味は格別なものとなりました。

私は寒い中を遠くから狩り出され、三方原の地で不遇の死を遂げた多くの兵士と共に温かなそばをいただくような気持ちで箸を進めました。

三方原合戦の鎮魂の塚

三方原合戦によって非業の死を遂げた数多くの将兵を敵、味方の区別なく甲う塚を外でもみつけることができました。

仏坂の戦いの戦死者の塚を伊平の人々は「ふろんぼ様(古坊様)」と呼んで供養し続けています。そこには戦国



千人塚(三方原学園)



ふろんぼ様(引佐町伊平)

期の様式の五輪塔や多数の石の塚が点在し、合戦の雰囲気は今に残っています。
三方原学園内の古墳を「千人塚」とか「戦人塚」とか名付けて畏敬の念を持ち続けてきたことも知りました。
数百年前の三方原合戦の戦死者の記憶が、現代に生きる浜松の人々の心中に去来していることを忘れてはなりません。これは民俗学者柳田国男が千人塚、首塚といった類の戦死者埋葬伝承を伴う古跡に對して、学術的な限差しを向けた貴重な事例として、私たちは今、新たな視線を向けていく必要に迫られています。

息神社のお面

息神社田遊祭顧問

嶋 竹秋

滋賀県にあるミホ・ミュージアムの春季特別展「猿楽と面」（期間平成三十年三月～六月）へ、息神社所蔵の県指定文化財六面を出展しました。他に獅子頭二点があります。

第二室の「猿楽から能大成」へ入るコーナーの左壁面の三ヶ所に窓をつくり、そこに「男（老年）」、「若い女」、「霊の男」の三面を飾っていました。全国的に有名な面が揃う中にあるこの場所に展示するにふさわしい貴重な面としての扱いでした。

一 猿楽と面

室町時代の前半に観阿弥と世阿弥によって大成された能は、猿楽を前史として生まれたといわれています。猿楽は奇術、曲芸、歌や舞、滑稽な物まね、芸を伴う寸劇などで、人気を得ていました。その時代の息神社所蔵面を次に紹介します。



尉の面 室町時代前期

口端の皺の溝に朱を施しているので、神の仮りの姿であります。または、現実の人間である男（老年）を表しているのかもしれませんが。

鼻の下とあご、頭に麻の植毛があり、気品のある老相です。裏面には、「御宝殿 宇布見米大明神 新漆面智薩」と刻銘があります。智薩という方が米大明神（息神社）へ面を奉納したという意味でしょう。



女面 室町時代

女神像を写したのでしょうか。能面より古い形を示しています。裏面には作者の特長を知らせる知らせ鉋があり、

越前地方の作品かもしれません。さらに裏面には刻銘で「いらこ里う志んへ参る」とあります。伊良湖岬の竜神と関係がありそうですね。



若い女面 室町時代

目の形、唇の朱色、頬のえくぼなどに、年若い神が持つ美しい表現が見られます。裏面の知らせ鉋、「いらこ里うしん参」の刻銘は前作と同じです。



霊の男 室町時代

目の白目の一部に金泥を塗っているのは生きた人間ではなく、神霊を表わしています。神霊とは、怨霊に取り付かれたいために、怨む靈魂を神として祀り、それを鎮めます。

菅原道真を祀る北野天満宮がその例です。本例は竜神に關係する神事の面でしょう。平成二十年十二月雄踏文化センターで梅若猶彦（観世流能楽師）達が演じた能楽「屋島」では尉の面と霊の面が使われました。古面が舞台でよみがえった例です。



鬼神の面 室町時代

追儼は、大晦日の夜や季節の変わり目などに悪魔を追い払うために行われる儀式です。本作は氏子に付いている悪魔を降伏させるための鬼神です。



鼻高面 室町時代

祭りの先達をつとめる猿田彦です。目と歯に金泥を施してあるので、神を表します。他に、舞楽に使う抜頭があります。土地の者が模写して作ったものです。

三 芸能者が奉納した面

中世の芸能を研究している宮嶋隆輔氏は、翁面の調査から、息神社の面は鎌倉時代の末期から猿楽、田楽の芸能者が村へ入ってきた足跡だと説明します。すると、面を奉納した智薩という方は、芸能者であろうと推測ができます。時代がくだり、慶長六年（一六〇一）の「うふミ地頭方神領之書立」によると、息神社では二月初午の御祭り（田遊び）があります。薬師堂では、正月七日と十一日のおこない（修正会）が行われていました。私たちが想像する以上に、多くのお祭りがあり、芸能が演じられていることが明らかになってきました。

現在では、息神社御祭神を表す七面（文化六年作）を神前に掲げ、その前で田遊祭を行います。面を使用している。

浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会加入団体一覧

無形民俗文化財名	実施日	会場	指定区分
呉松の大念仏	令和2年 8月15日 13:00	西区庄内町 宿藍寺	県指定
滝沢の放歌踊	令和2年 8月13日	北区滝沢町 林慶寺 他	県指定
横尾歌舞伎	令和2年 10月第2土・日 16:00	北区引佐町横尾 開明座	県指定
川合花の舞	令和2年 10月第4土曜日	天竜区佐久間町川合	県指定
西浦の念仏踊	令和2年 8月14日・16日	天竜区水窪町奥領家	県指定
遠州大念仏	毎年7月13日・14日 8月13日・14日	浜松 磐田 袋井市内各所	市指定
	令和2年 7月15日	中区鹿谷町 犀ヶ崖資料館	
犬居つなん曳	令和2年 5月5日 18:00	天竜区春野町堀之内 犬居地内	市指定
勝坂神楽	令和2年 10月第4日曜日 12:00	天竜区春野町豊岡字勝坂 八幡神社・清水神社境内	市指定
有玉神社の流鎧馬	令和2年 10月2日～4日	東区有玉南町 有玉神社	市認定
今田花の舞	令和2年 11月7日	天竜区佐久間町奥領家	県選挙
雄踏歌舞伎	令和3年 1月第3日曜日	西区雄踏町 雄踏文化センター	市認定
滝沢おくない	毎年 1月1日	北区滝沢町 四所神社	国選挙
	1月4日 10:00	北区滝沢町 林慶寺	
寺野ひよんどり	1月3日 14:00	北区引佐町洪川寺野 直笛山宝蔵寺	国指定
懐山おくない	1月3日 13:00	天竜区懐山 泰蔵院	国指定
川名のひよんどり シンシ打神事	1月4日 18:00	北区引佐町川名 八日堂	国指定
	1月4日 14:00	北区引佐町川名 八日堂	国選挙
神澤おくない	1月4日 13:00	天竜区熊	
百万遍念仏と念仏講	令和3年 1月11日	北区細江町中川 妙功庵観音堂	市指定
東久留女木の万歳楽	令和3年 2月1日 18:00	北区引佐町東久留女木 阿弥陀堂	市認定
西浦田楽	令和3年 3月1日(旧暦1月18日) 月の出	天竜区水窪町奥領家 西浦所能観音堂	国指定
息神社田遊祭	令和3年 3月7日 10:00	西区雄踏町宇布見 息神社	市認定
浦川歌舞伎	休止	天竜区佐久間町浦川	市認定

仮面と龍神の信仰

宮嶋隆輔

遠江は芸能の宝庫だが、同時に「古面」の宝庫でもある。息神社所蔵の獅子頭と仮面、三ヶ日・宇志八幡宮の父尉・鬼面、大福寺旧蔵の父尉面などはとりわけ古く、一部は鎌倉時代にまで遡る。さらに北上して中山間地帯に入ると、独創的な造形の仮面たちが年ごとの祭り（おくない・ひよんどり・田楽）に出現する。これらの仮面群は戦後、日本の仮面研究の泰斗（後藤淑、田辺三郎助など）を魅了し、現在も全国から注目を集めている。

息神社所蔵の女面の面裏に「いらこ里う志んへ参る」の刻銘があり、伊良湖の龍神へ捧げられているのは興味深い。中世、面はつけて演じるだけでなく、しばしば祈願のために神へ捧げられたマジカルな宝物（呪物）であった。例えば世阿弥の子・観世元雅は「諸願成就円満」を願って吉野・天河弁財天に面（阿古父尉）を奉納している。さらに遡って鎌倉中期の雅楽書『教訓抄』は「住吉社（大阪・住吉大社）の面は、淡路で漁師の綱に掛かった面である。海中から取り上げたものに面には少しも損耗がなかった。神社の古老はこれを「竜宮面」と呼ぶ」と記す。

新城市の宇利天神（通称・雨引き天神）にはこんな伝承がある。「宇志八幡宮の古面はもと宇利天神の神宝だった。

ある時、面を使って雨乞いをするに願い通じて大雨が降ったが、面はその嵐に吹き飛ばされ浜名湖に落ちた。宇志の岸に漂着した面を漁師が拾い上げて祀った。事実関係はともかく、貴重な伝承である。

神聖な面が海から浮かびあがったり、流れ着いたり、天から降って来たり（まるで雨の如く？）した話が多い。不思議な力を持つ面は、雨乞いにもよく使用された。現在でも「洪水になるから」といって神宝の面箱を決して開けない土地は多い。

面はなぜかように雨乞いや水の神、龍神信仰と関わりが深いのか。詳しくは別稿をまわりたいが、その背後には平家物語などに見える、中世の龍神（竜宮）と呪宝をめぐる世界観がある。息神社所蔵女面の「伊良湖龍神へ参る」刻銘と、観世元雅による弁財天への尉面奉納とは、どこかで響き合うと私は考えている。

ともあれ、遠江の古面は、神仏と芸能をめぐる奥深い世界を秘め持ち、それらの解明はまだまだこれからだといえそう。